

次郎丸嶽 (397m) 公募ハイキング



今泉西辺登山口



太郎丸嶽より次郎丸嶽



太郎丸嶽 P1 の登り



H24.10.14(日) 12名参加 (天草山岳会)

1号車-YK、Y、S、N

2号車-K、KH、KY、YH、M

3号車-NT、KR

4号車-MH

■10/14 曇 7:52 天草市役所出発, 8:45 今泉西辺登山口(車を木楽里館へ回送), 9:00 出発, 9:41 長寿の湧水, 9:48 遠見平, 9:54 太郎分岐, 10:10 太郎丸嶽 P1, 10:25 太郎丸嶽 P2 (写真), 10:45 分岐, 11:20 北西尾根の頭(大岩), 11:25 次郎丸嶽 (弁当), 12:20 下山開始, 12:27 大岩, 12:50 後山新道分岐, 13:35 後山, 14:10 木楽里館, 14:40 出発, 15:10 本渡解散, 参加費 69km 500円(資料代, 保険代, 写真代, 車代還元 1000円)

■天草山岳会と天草自然公園ボランティア協会との共催による次郎丸嶽公募ハイキングは例年11月に実施していたが、今年は宮崎ウェストン祭と祖母山登山の予定のため10月に計画した。10月は天候が安定し山登りに最適の季節になった。

下山口の木楽里館へ車を回送し、各人自己紹介をして12名で歩き始める。黄色く色付き始めた柿の実やコスモスの花を見ながら西辺の集落を通る。畑の手入れをしている地区の方々と挨拶を交わし、キーウイやタケの話しながら歩く。砂防ダムを過ぎ尾根の上で休憩、少し汗をかく。

「長寿の湧水」には水が無く涸れていた。ツチトリモチを見て「遠見平」で休憩。数日続いた快晴だったが今日は雲が消えない。太郎丸嶽へ分岐を右折。ウラジロに覆われた道を分けて風化した砂岩の尾根を登る。しだいに眺めが良くなり、背後に次郎丸嶽の北北西尾根が横たわる。太郎丸嶽 P1 の岩場を登り頂上へ、東側を回り込み先へ進むとやや下り道になる。急坂を登り詰めると太郎丸嶽 P2 の山頂へ到着。地形図には独立標高点 281m の記載がある。私はこちらを山頂と考えている。山頂から今泉の干拓地と千元森嶽の北西尾根が一望である。

次郎丸嶽山頂



弥勒菩薩の祠と修復された祠(H25.1)



北西尾根の頭（大岩）で



ハギの花



分岐へ戻り、左の道を登る。尾根状の道から正面に大岸壁が見えるようになる。この辺りは昭和 47 年の上島大水害で崩壊した斜面のため急な道が続く。早々に下山者の一団とすれちがい道を譲り合う。滑りやすい砂岩に変わり慎重に登ると大岩に到着。ここからの眺めは素晴らしく有明海の先に雲仙普賢岳を遠望し、正面に丸く大きい老嶽を見る。

先へ進むと石造の弥勒菩薩が祀られ祠が倒れかかっている。何とかこれを修復できないものか。祠の側面に『奉再建 維時文政十一歳□子三月十八日 功德主 當村若連中 願主 人口□助左衛門』と削られていて、祠の表面の石質は赤味を帯びている。古来地元では次郎丸嶽のことを「弥勒岳」や「ニロクサン」と呼んだ。太郎丸嶽、次郎丸嶽の名称由来は「太郎」にその謎が隠されている。「太郎」と呼ぶ地名は日本各地にあり、拙著「太郎物語」にまとめてみた。

次郎丸嶽の山頂は 360 度の素晴らしい眺望で天草の秀峰の筆頭に数えられる。さっそく集合写真を撮り弁当を広げる。

北西尾根の頭（大岩）で写真を撮り、北西尾根を下る。こちらは登山者が少ないため蜘蛛の巣が張り、登山道がウラジロの藪に覆われている。しばらく下ると足元が良くなり北北西尾根の素晴らしい岩尾根を見る。またハギの花がきれいに咲いていた。

途中から左折して「後山新道」を下る。こちらは平成 12 年頃のスーパー松植林事業で整備された登山道だが手入れされずだいに草木に覆われて歩きにくくなってきた。しかし西側に面しているため明るく景色が良い。

天然記念物ヒモヅルが道の斜面にあり観察する。急坂を下り植林地を通過して後山集落に無事下山した。木楽里館まで車道を歩きトイレ休憩し、車を回収して本渡へ帰り解散した。

弥勒菩薩の祠は NR さんにお問い合わせしたところ後日地元の方々の手で修復されました（傾きが少し残念ですが）。(N)